「家計が厳しく、パートを増やした」と話す主婦、「朝から夜遅くまで働いても食べるのがやっと」という若者の悲痛な叫び、「固定資産税が払いきれず、難病治療を中断している。生きるのがつらい」という高齢者、酸素ボンベをつけて働いても、親会社の単価切り下げに悩む自営業者…。人を人として大切にしない政治がうみだしたこの状況を、私は放っておくことができません。

市民のくらし、福祉や教育を優先できる市政に…私は、その声をとどけ続けます。

苦難によりそい　政治を動かす

小田桐たかし

市議4期　日本共産党

流山民報 号外　2015年4月号外

日本共産党東葛地区委員会が発表した小田桐たかし市議の政策と見解を紹介します。

日本共産党流山市議団／加４-1688

ご意見・ご感想をお寄せください。

☎04-7154-8253（小田桐たかし事務所）

憲法9条破壊の「戦争立法」許しません

米軍などといつでも、どこでも自衛隊を戦争に参加させるようとすすめる安倍内閣、国民的危惧が広がっています。「『憲法9条』を守り活かす政治を」の声をご一緒に広げましょう。

ブラック企業から若者守れ

使い捨て、モノ扱い、死ぬまで非正規…これでは、若者の生活や夢を奪い、社会の安定にも支障がでます。日本共産党は、『ブラック企業根絶法案』を国会に提出し、正規雇用が当たり前の雇用環境へ力をつくしています。

立入調査・情報開示 実現

国民的運動に押され、厚労省は、一昨年事業所4千社への立入調査を実施。さらに今年春の大卒らに向けた求人票に過去３年間の採用者数と離職者数の記入欄を設け、情報開示を強めました。

中小企業、農業…地場産業の振興に力そそげ

雇用の７割を占める中小企業と、国土を守る家族農業の衰退は、日本社会と経済の衰退につながります。日本共産党は、ＴＰＰからの撤退と、官公需の拡大、余剰米買い上げによる米価下落対策を提案しています。

衆議院選の躍進を力に　国民の願い実現　日本共産党

小田桐たかし市議と力を合わせてがんばります

参議院議員・党副委員長　小池　晃

衆議院議員（南関東ブロック）　斉藤和子

企業献金禁止・政党助成金廃止へ法案提出

政治とカネに怒りがいっぱいです。日本共産党は『政党助成金』廃止法案に続き、企業団体献金禁止法案を国会に提出しました。実現に力を尽くしています。

地域にも市にもいなくてはならない

人とうの議員さんです。小田桐さんの市議会での発言回数は、昨年末までで96880回。ダントツです。

子どもの医療費助成の拡大、初石駅改善、国保料据え置き…地域でも全市的にも実績をあげれば きりがありません。

昨年の3月市議会「少数精鋭」と定数削減を持ち出した議員に、「あなたは精鋭か、そうでないならあなたが辞職を」「人口減少・税収減少を理由に定数削減といいながら、一方では大きな借金をつくる体育館建替え事業や大規模事業を推進。どちらが本当なのか」と迫る小田桐さん。答弁できず、何度も休憩することに。

また ある時は、放射能による独自測定の実施、市長の方針『低減』では なく『除染』を前提にした計画づくり、放射能汚染の焼却灰はテント保管で済ませるとする市長に、「ここにこそ物内に保管させること」と改善させます。…こっちの出勤もいれば、お母さんの赤ちゃんが電車に乗り込む姿を見たこと。…この市民の不安や、たくさんの市民の苦難の実態を把握し、実現できる確信が湧いてきました。

一夜漬けの勉強ではありません。その言葉の裏には、実現しなければならないという思いが入れはもちろん、物内に入れはもちろん、迫り、コンクリートの建ちの実績を推進。どちらが本当なのか」と迫る小田桐さん。「選挙の時だけ」の方とは性根が違います。

示してきました。小田桐さんは対案を出してきました。

困った時は小田桐さん

「計画停電で電車が動かなかったとき、あなたが朝、駅に来てくれ、助かった」「断水の時、小田桐君だけが車で回って知らせてくれた」…大地震後、小田桐さんの活動は まずまず加速します。

市議に初挑戦し、当選。1999年、市議に初挑戦し、当選。

「パー、ケアマネジャーの免許を取得し、地域のお年寄りに寄り添っています。

市議として

阪神大震災も小田桐さんの人生を大きく変えました。全国からのボランティアと一緒に、毎日ボランで水を運んだり、汗を流しまをを片付けたり、が流れた。家族や家を失った青年たちから「共産党の事務所での助け」ら れた」「避難所に一番最初に届いた新聞が『赤旗』だった」との声を心に刻みました。

「困っている人を救えるのは、東日本大震災の支援を体感した 相馬市から「それでもあ 相馬市の返答に、南 流山市に避難し 流山市の「合所 住民と党市議団ら が慰 問する と、食事は毎食、 品の 雑巾がたくさんあり ぞ 上げられました。「被災 ま す、困っている人に届 け た い。役所では『被災 地 に は いらない』と断ら れ て 」「ボランティアは市から出ないの？」 と 訴 え ら れ ま し た。 小田桐さんは、こうい う 声 を 拾 い 上 げ、粘 り 強 く 市 へ 要 請。 避 難 所 で は 夜 の 炊 き 出 し を 日 本 赤 十 字 社 が 担 い、電 気 や 棚 の 湯 飲 み も 利 用 で き る よ う に なっ た の で す。

新品の雑巾は、石巻市に届け、被災者を励ました。

小田桐さんは、石巻市で、日本共産党独自に35名 ボランティアを運行させたいのの ボランティア隊を募り、 民 ボ ラ ン テ ィ ア 隊 を 結 成 し た。 大人が三人、子どもが七人 ー に は、 子 ど も の 頃 は 東深井の老人福祉センター 大地震、大津波、放射 能への不安、恐怖の身体 が震えます。「寝る場所と心をつなぐ……この小田桐 さんの姿勢は阪神大震災 毛布、お風呂だけなら、

地域から青年へ

小田桐たかしさんは、 1973年に神戸の市営 住宅で生まれました。お 父さんは日本共産党の専 従職員、お母さんは町医 者の事務仕事をして家計 を助けていました。

お母さんの手作りの『おにぎり』の佃煮、いろいろ 小田桐さんは３ヨーカ堂や 農家、業者に支援を依頼 する ど 動きを出しました。 電気釜に入っただけの、 大鍋に入っただけのみそ汁、 煮物もいっぱい。「あ の 温かいごはんを食べ られる」と思って いたら、施設職員が「コ ンビニに行く使わないで。 上からの指示なんで」と 一言。みんなでつくりII お母さんたちの温かいII 気 が 断 ち 切 ら れ て し ま いました。

地域から青年へ

とても国の支援を体感した 人らなのでしょうか。

最終電車で帰ってくるお 父さんが、小田桐さんの 高校合格発表の日に例れ ました。心筋梗塞でした。 半年間、生死の境をさま よいました。が、あんなの 支えで回復しました。

無理がたたったお母さ んも腎臓病を患い、身体 障害者に。一生懸命、ま じめに生きているのに、 どうしてって…そんな思い が広がります。

お父さんは、病気を乗 り越え、専従として定年 まで勤め、その後は『低減』

小田桐たかし 物語